

# ヘルス&クリニック

**Q** 椎間板ヘルニアの診断で治療したが、よくならない。何か良い治療法を！

自営で印刷業をしています。数年前から腰痛と足のしびれて苦しんでいます。整形外科で診てもらいましたら椎間板ヘルニアということで、牽引治療や薬を飲んでいますが、ほとんど効果がありません。手術をすすめられていますが、この不況のもとでは入院・手術は不可能です。良い治療法を紹介してください。(印刷業、33歳、東京都)

**A** 整形外科的な画像診断は意味がない。痛みをとるには仙腸関節のズレを正せ！

腰痛で苦しんでいる日本人は2000万人以上ともいわれていますが、ひとくちに腰痛といっても、神経の障害から腰の脈場まで、原因はさまざまです。腰痛で第一に鑑別しなければならぬのは、本

当の椎間板ヘルニアのように、神経根が圧迫され、炎症を起こして痛みを引き起こしているかどうかです。こうした場合には、やはり整形外科で適切な治療を受けなければいけません。しかし、腰痛の大半は、レントゲン撮影やMRI(核磁気共鳴診断)などの検査で異常がないのに、痛みが起きている。原因が特定できないから、こういう曖昧な病名がつけられているのです。また逆に、画像診断で脊椎の変化などが発見されても、必ずしも、それが痛みの原因になっているとは限りません。とくにMRIというすぐれた診断機器が



住田憲是(52)  
●望クリニック  
整形外科主任

岐阜医科大学卒業、東京大学医学部卒。AKA療法を完全に習得した数少ない整形外科医の一人。日本整形外科学会認定医。同学会認定リウマチ専門医。東京都豊島区南池袋3-8-3池袋クラウンハウス1102、☎03-3998667 889(要予約)

## 嘆きなさんな 伴武司



腰痛においても原因が特定できないのですから、整形外科

この仕組みはまだ十分に解明されていません。しかし、こ

ができるわけです。

使われだしてからは、椎間板ヘルニアと診断される腰痛症が増えてきました。けれども、画像診断で椎間板が脱出してると指摘されても、痛みをまったく感じない人もいます。整形外科の分野では、画像診断の結果と実際の痛みの原因とは、ストレートに結びつかない場合が多いのが実際のところなのです。

しかし、これらの腰痛は、人体の中心部にある仙骨と腸骨を結んでいる仙腸関節のズレ(機能異常)を正すと、約8割は痛みが解消し、治るのです。仙腸関節は、数ミリ程度という、動きのごく少ない関節なのですが、ここにズレが生じると、遠く離れた部位にまで痛みが起るのです。

の関節の機能異常を正すと痛みがとれることは、これまで2万人以上の患者を診てきた結果として、自信をもって断言できます。仙腸関節(他にも、第一肋椎関節、頸椎椎間関節など、痛みの発生源となる関節はいくつかあります)の機能異常を正す治療法をAKA(関節運動学アプローチ)療法といいます。場合、つまり仙腸関節の機能異常が原因でない場合には、他に原因があることが確認できます。まずAKA療法を受け、それに反応しない場合に初めて従来の整形外科の検査を行なうと、どんな腰痛であってもほぼ正しい診断がなされ、適切な治療を受けることができるわけです。

科やカイロプラクティックなどでも決め手となる治療法はありません。結局、筋肉の緊張をとったり安静で症状をやらわらせるだけが目的の対症療法に終始します。根本的な治療はできないのです。

AKA療法で関節の機能異常を正せば痛みはとれる